緩和ケア病棟

さとわ

No.13

緩和ケア病棟「郷和（さとわ）」理念

1. 豊かな自然環境の中で、その人の気持ちに添ってケアするとともにその家族を支援します。
2. その人のもつ苦痛の緩和につとめます。
3. その人の希望に添って自宅での生活を支援します。

郷和この一年

施設長　篠川　主

平成27年、南部郷厚生病院緩和ケア病棟「郷和」の１年間を振り返ってみますと、まだ入院できる余裕があるのに、この地域や県内の医療機関に十分認知されておらず、残念という思いが致します。入院の予約をされた方の約15%にあたる患者さんが、1～2週後の入院日の前に急変され、入院できなくなっておられました。また入院された患者さんの23%の方が、入院後10日以内に亡くなられておられました。全体では郷和に入院予約をされた方の35%の患者さんが、緩和病棟の良さを全くか、あるいは十分に実感して頂かないうちに亡くなられた可能性があります。患者さんの家族の中には「もう少し早く来ればよかった」と言われる方は少なくありません。私達職員も同じように感じることが多くありました。郷和は県内に4か所しかない緩和病棟の中で、唯一の院内独立型病棟です。自然に囲まれ、広く静かな環境で過ごすことができるよう配慮された設計になっています。これから癌により亡くなる方は高齢になるほど急増します。誰にも生に対する執着はあると思いますが、最後まで死を否定したり、死に向き合わず、後ろ向きで最後の時に至るような生き方もあると思います。また最後の時をどう過ごすか、自分自身で選択していくことも大切な文化だと思います。癌患者が増加し、その方々の最後の生き方を見せて頂き、医療者も多くのことを学んで来ました。私達が癌患者となった時、肉体的苦痛だけではなく、人として生きてきた故に様々な苦痛を携えて、最後の時を過ごすことも多くあります。緩和病棟とは全人的な苦痛に寄り添ってケアを目指す病棟です。亡くなられた遺族の満足度調査では、緩和ケア病棟での評価が最も高くなっています。癌になることが当たり前となる時代になり、緩和病棟で最後の時を過ごしたいと願う人が増えると予測されます。先に述べた35%の患者さんの数をなるべく減らしていきたいと願っています。ぎりぎりの病態の時でなく、少し体に余裕のある時期に入院されることをお勧め致します。昨年は近隣の病院に改めて郷和の紹介に伺いました。私達が全ての苦痛に満足な対応ができる訳ではありませんが、より多くの方に郷和に入院してよかったと思って頂けるよう努力してまいります。またこの一年間郷和の入院生活をより豊かにするため、多くのボランティアの方々の御協力を頂きました。衷心より感謝申し上げます。有難うございました。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015にいがた」に参加して

緩和ケア病棟「郷和」看護師
高橋　裕子

リレー・フォー・ライフの活動は、がん患者さんやそのご家族を支援し、地域全体でがんと向き合い、がん征圧を目指すもので、地域社会主体のチャリティーで、1年を通じて取り組みます。リレー・フォー・ライフの活動の締めくくりとして2日間のイベントを開催、会場ではチームの仲間と襷をつなぎ、夜通し歩くリレーウオークも行われます。24時間歩き続けるのは、「がん患者は、24時間がんと向き合っている」ことから、その思いを共有し支援するためです。
リレー・フォー・ライフ・ジャパンは2006年のつくば市でのトライアルを経て、翌年、芦屋市とお台場で始まりました。開催箇所は年を追うごとに増え、2015年は新潟でも初めて開催されました。

9月21、22日に新潟県スポーツ公園で“リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015にいがた”が開催され、当法人も参加しました。当法人のブースでは緩和ケア病棟「郷和」の紹介と、押し花コースター作り体験コーナーを設け、寄付金を募りました。

リレーウォークでは、「がん患者は24時間、がんと闘っている」という思いを共有し支援するため、24時間交代で歩き続けました。医師、看護師、薬剤師をはじめとした職員の他、ボランティアや職員家族も参加し、襷を繋げました。大勢の参加者があり、24時間休むことなく歩き続けることができました。夜明けの空の美しさに疲れも忘れ、すがすがしい思いになりました。

当日参加できなかった職員の真心の寄付金と当日の寄付金を全額寄付させて頂きました。ちなみに、“リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015にいがた”の寄付金は、全体で260万円ほどになったそうです。

がん患者さんやそのご家族と接する機会の多い私たちにとって、がん征圧は大きな願いです。がん患者さんやそのご家族の皆様の支援と、がんで苦しむ人を出さないための活動に、これからも積極的に参加していこうと思っています。

「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2015にいがた」に参加したときの様子

病院訪問を通して

南部郷厚生病院　医療相談員
佐々木　洋輔

平成１３年８月に併設型緩和ケア施設が設置されてから１５年目となりました。たくさんの方から、緩和ケアや短期レスパイト目的としてご利用いただきました。その中で、患者様は、ご家族様等とよい時間を過ごしていただくことができたのではないかと感じています。しかし、中には、残念ながら、入院後早々に状態が悪くなってしまった方もおられ、もう少し早くきていただけてたらなと思うこともありました。

病棟見学にもたくさんの方においで頂きましたが、郷和のことをみなさまによりわかりやすく伝わるようにと、昨年、パンフレットをリニューアルいたしました。五泉市の象徴の一つでもある「さくら」をメインカラーに使用した背景で、病棟の雰囲気や周辺の環境を感じ取れる内容です。このパンフレットは、近隣の医療機関に出向いて地域連携室等へ配布させていただきました。その際、他医療機関より、患者様やご家族様が緩和ケアに対してのどのような印象をもっているかも伺えました。「最期までその人らしく生きれるところ」や「苦痛をとってもらえるところ」とプラスとして捉えている人も多いようですが、その逆で「緩和ケアは死を待つだけのあきらめの医療」といった誤解をしている方も多くいるようです。もっと身近に、緩和ケアというものを知っていただく必要があり、さらなる普及啓発活動が必要だと感じました。

近年では、五泉市の方が約４０％、新潟市の方が約２５％、阿賀野市の方が１５％、それ以外の方が約３０％と地元以外にも多くご利用いただきましたが、他市在住の方にとっては、五泉市は「通いづらい」「遠いイメージがある」といった声も多くあることも伺いました。車以外での手段としては、五泉駅から当院まで、基幹バスを使用し約１９分で行き来することができますし、高速バス（五泉・村松線）利用をする手段も御座います。郷和の見学含め、一度五泉市にも足を運んでいただけたらと思います。

ご利用いただいた方のご家族様からのありがたいお言葉や時には厳しいお言葉をいただき、郷和も歳を重ねております。

「緩和ケア」、がん医療を充実させるひとつの選択肢としてたくさんの方におぼえていただけるように努力してまいります。

イベント行事の様子

３月　フラダンス

６月　ライアーコンサート

１２月　クリスマスコンサート

郷和での学びとこれからの抱負

緩和ケア病棟「郷和」看護師　金子 かおり

郷和に異動し4ヶ月が経ちました。産休明けでブランクもあり、新しい場所で1から仕事を覚えること、新たなスタッフと共に働くことに対し不安を感じていました。4ヶ月が経った今、やっと病棟の雰囲気にも慣れ、日々の業務を指導していただきながら何とか動けるようになってきたところです。夜勤にも入り、3ヶ月目からは受け持ち患者さんを1人持たせてもらっています。苦痛は何か、その苦痛は緩和できているのか、希望する日常生活は送れているかなど患者さんと一緒に考え、ケアに繋げられるよう奮闘しています。麻薬をはじめとする鎮痛剤についての知識や、病状の把握とその先の見通し等まだまだ勉強不足なところが多く、患者さんや先輩スタッフから日々教わっています。

今後は患者、家族の思いをしっかり受け止め、少しでもその思いを実現できるようにしたいです。そのために疼痛コントロールが図れるように鎮痛剤をはじめとする薬についての知識を身につけ、予測だてた行動ができるようにしたいです。また、最期までその人らしく過ごしてもらえるよう患者、家族の気持ちに寄り添ったケアを行っていきたいです。

「郷和」利用状況

（H.２６年4月～H.２７年3月）

入院患者数	１２８名
退院患者数	１３２名 （死亡退院　１０６人） （自宅退院　　１８人）
一日平均入院利用者数	１３．６名
平均病床利用率	６８．０％
平均在院日数	３５．７日

発行年月日　平成２８年３月２８日
編集・発行　南部郷厚生病院
緩和ケア病棟「郷和」
〒959-1765　新潟県五泉市愛宕甲2925-2
TEL(0250)58-6111㈹　FAX(0250)58-7300
ホームページ　http://www.sinjinkai.or.jp/kanwa/
メールアドレス　nanbupcu@sinjinkai.or.jp